

第1回 仙台市交流人口ビジネス活性化懇話会 議事概要

■日時：平成30年7月2日（月）18：00～20：15

■会場：仙台市役所本庁舎2階 第二委員会室

■テーマ：交流人口拡大による地域経済の活性化

■参加者（敬称略）：

仙台市長 郡 和子（座長）

一般社団法人東北観光推進機構 総務渉外部チームリーダー 小林 千秋

株式会社東北地域環境研究室 代表 志賀 秀一

仙台秋保温泉岩沼屋 取締役会長 橘 真紀子

株式会社近畿日本ツーリスト東北 代表取締役社長 野崎 佳政

仙台ターミナルビル株式会社 常務取締役ホテル事業本部長 林 健一

仙台商工会議所 参与 間庭 洋

宮城学院女子大学 現代ビジネス学部長 宮原 育子

（進行役：仙台市文化観光局長 天野 元）

■次第：1. 市長挨拶

2. 参加者自己紹介

3. 話題提供

4. 意見交換

■主なご意見

【ターゲット戦略】

- ・グルメやショッピングなど消費をリードし、SNS で積極的に発信するのは若い女性。仙台を女子にやさしいまち（ガールズフレンドリーシティ）としてPRしていくことも有効なのは。
- ・滞在日数が長く消費も期待できる欧州や中国の富裕層も視野に入れた戦略を持つべき。
- ・ワールドカップやオリンピック・パラリンピックは大きなチャンスなので、狙いを定めていく必要がある。

【東北の拠点機能】

- ・交通拠点性の高い仙台のメリットを活かし、東北の回遊を促進するような取り組みが必要。また、東北がバラバラに情報発信するのではなく、東北各市と連携し仙台が情報のゲートウェイ機能も果たすべき。仙台が東北の観光首都機能を担うべきではないか。
- ・東北の様々な魅力をストーリーやテーマをもって提案し、回遊性の高い商品を効果的に発信していくことが必要。
- ・仙台をベースキャンプとし、日帰りや1泊など小さな荷物で東北各地を回遊する旅の提案ができればよい。「東北の旅を仙台から始めよう」というキャッチフレーズはどうか。
- ・行政、市民、産業界、企業が東北の共同体意識を高め、東北の一体性を意識して取り組んでいくべき。また、仙台が仙台のためだけではなく、東北全体に効果を波及させる意識をもってリーダーシップを発揮すべき。

【コンテンツの充実】

- ・仙台の拠点性を高めるためにも、ナイトライフを楽しめる「夜」コンテンツの充実が必要。
- ・宿泊・観光施設の稼働率が下がる冬の誘客が必要。特にインバウンド向けには、冬が東北の売りになるので、「冬」コンテンツを上手くPRすべき。
- ・地域の歴史を掘り起こしていくと様々なストーリーがつながり、それが人を呼ぶ魅力になる。
- ・音楽やスポーツなど、外国人も楽しめるものを仙台に定着させることも必要なのではないかな。
- ・SNSで発信されるような資源を増やしていくとよいと思う。
- ・魅力がない場所にはいずれ人は来なくなる。人を呼ぶだけでなく、地域の魅力を上げていくことが重要。

【個人旅行者（FIT）への対応】

- ・都市近郊を周遊してもらうためには、レンタカー、タクシー、高速バス、定期観光バスなどの二次交通の充実が重要である。
- ・着地型ツアーの充実や少人数の旅行にも対応できる観光ガイドの育成も必要なのではないかな。

【その他のご意見】

- ・市民のおもてなし意識を向上させるためにも、海外を経験する人を増やす必要がある。成人式を迎える人にパスポートをプレゼントするなど、アウトバウンドにも取り組むべき。
- ・インバウンド誘致には、仙台空港の直行便を増やすことも重要である。
- ・コンベンション開催時のエクスカージョンの機会を増やし、魅力を知ってもらうことも大切。
- ・仙台・東北の観光人材を育成していくことも急務である。
- ・一部の事業者だけでなく、幅広い事業者においておもてなしの意識醸成が必要。